

教科	美術	履修学年	第3学年	指導時間	35 単位時間	担当者	小田 繁
使用教科書	美術2・3上[美術の広がり] 美術2・3下[美術の力] (光村図書)	補助教材	感じる 表す 美術資料 (浜島書店)				
目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。						
評価の観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力		創造的な技能		鑑賞の能力	
趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。		感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しをもったりしながら、創意工夫して表現している。		感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中の美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、美術文化の特性やよさに気づいたりしている。	
評価資料	○スケッチブック (ポートフォリオ) ○授業の様子 ○ワークシート	○作品 ○アイデアスケッチ ○テスト		○作品 ○テスト		○ワークシート ○まとめ、感想 ○テスト	

指導計画

月	単元又は題材	時数	学習内容	評価の観点及び観点に応じた主な学習達成目標			
4	感じたことを話し合おう 北斎 (浮世絵, ジャポニズム) 下P12, 上50~51 水墨画 下P36	2	○浮世絵制作の過程とそれを支えた分業の仕組みについて知り、伝統文化に対する理解を深める。また、ジャポニズムを題材に作品を鑑賞し、国境を越えた文化の交流によって、新しい表現が生み出されてきた過程について学ぶとともに、日本の文化の特徴について再認識する。 ○水墨画の用具の基本的な使い方や表現の学習。作家や生徒の作品に込められた情景への思いと表現方法の工夫を深く味わう。自分の経験や心情をあらわす場面や構図、材料の使い方などを考えて絵で表現する。	美術への関心・意欲・態度	○木版ならではの表現に興味をもとうとしている。 ○ジャポニズムを例に、美術を通じた国際理解に目を向けようとしている。 (ポートフォリオ, ワークシート, 授業の様子)		
				発想や構想の能力	○表現の特徴を生かした下絵の構想を練ることができる。 ○自分の経験や心情から発想を広げることができる。 ○視点や構図、遠近のあらわし方を考えながら構想を練ることができる。 (作品, アイデアスケッチ, テスト)		
				創造的な技能	○ふさわしい表現方法を選び、工夫してあらわすことができる。 ○材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫する。 (作品, テスト)		
				鑑賞の能力	○浮世絵が江戸時代に大流行した理由を調べ、話し合うことができる。 ○浮世絵と西洋の美術作品を比べ、違いや共通性を話し合うことができる。 (ワークシート, まとめ・感想, テスト)		
5	15才の自画像 下P16~21 感じたことを話し合おう (露光) 上P18~23 期末テスト 立体に関する技法と用具 木彫 (木彫額縁) 上P42~43, 34~35	3 1 1 3	詞や自画像の鑑賞を通して、誰もが抱える若い魂の葛藤に触れ、今の自分を見つめて未来への不安や希望と向き合う。表現の際には自由に表現方法を選んで現在や未来の自分をテーマに作品をつくり、作品に対する思いを言葉で伝え合う。 ○露光の作品から、作者の思いなどを想像し、この作品を見たことによる自分の心の変化を実感する。感じたことを言葉で表現したり、意見を交換することで、考えを深めたり共有する。 ○日本の風土の中で培われてきた工芸品の例について、身近な工芸品を鑑賞し、日本の伝統文化を継承し、新しい解釈も加えて現代の暮らしに生かしていることとする態度を養う。	美術への関心・意欲・態度	○自分の気持ちを見つめ、作品にあらわすことに関心をもとうとしている。 ○露光にとって生きるとはどんなことだったのかを想像しようとしている。 ○工芸品に見られる季節感や自然の美の魅力に気づくことができる。 (ポートフォリオ, 授業の様子, ワークシート)		
				発想や構想の能力	○今を生きる自分や将来になりたい自分を基に発想を広げることができる。 ○目的や条件に合った形や色などを使って発想を広げることができる。 (作品, アイデアスケッチ, テスト)		
				創造的な技能	○ふさわしい表現方法や材料を選び、工夫してあらわすことができる。 ○材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫することができる。 ○材料の特性を知り、全体の仕上がりを意識してつくることできる。 (作品, テスト)		
				鑑賞の能力	○作品と言葉を合わせて鑑賞し、感じ取ったことを話し合うことができる。 ○ (ワークシート, まとめ・感想, テスト)		
6	木彫額縁の制作	1学期小計 (10)	○日本の風土の中で培われてきた工芸品の例について、身近な工芸品を鑑賞し、日本の伝統文化を継承し、新しい解釈も加えて現代の暮らしに生かしていることとする態度を養う。	美術への関心・意欲・態度	○工芸品に見られる季節感や自然の美の魅力に気づくことができる。 (ポートフォリオ, 授業の様子, ワークシート)		
				発想や構想の能力	○目的や条件に合った形や色などを使って発想を広げることができる。 (作品, アイデアスケッチ, テスト)		
7	木彫額縁の制作	6	○日本の風土の中で培われてきた工芸品の例について、身近な工芸品を鑑賞し、日本の伝統文化を継承し、新しい解釈も加えて現代の暮らしに生かしていることとする態度を養う。	創造的な技能	○ふさわしい表現方法や材料を選び、工夫してあらわすことができる。 ○材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫することができる。 ○材料の特性を知り、全体の仕上がりを意識してつくることできる。 (作品, テスト)		
8							
9							

月	単元又は題材	時数	学習内容	評価の観点及び観点に応じた主な学習達成目標		
10 11 12	感じたことを話し合おう (イサムノグチ) 下表紙 篆刻(握りを中心とした彫刻表現) 期末テスト	1 9 1	言語活動 作品から感じ取ることのできる作者の思いや、技法的な工夫について、既習内容をもとにして文章にまとめる。	鑑賞の能力	○作品と言葉に合わせて鑑賞し、感じ取ったことを話し合うことができる。 ○(ワークシート、まとめ・感想、テスト)	
			○イサムノグチの作品を鑑賞し、国際的な作家の活動交流によって、新しい表現が生み出されてきた過程について学ぶ。	美術への関心・意欲・態度	○いろいろな作品から、美しいと感じる形や空間を感じ取ろうとしている。 (ポートフォリオ、授業の様子、ワークシート)	
			○作者の願いや思いを単純化や強調を用いて表現する抽象彫刻について学ぶ。対象をよく観察し単純化や抽象化し、材料の使い方を学びながら、感じ取ったことをより効果的にあらわす工夫をする。	発想や構想の能力	○動きを際立たせるために省略や強調する部分を考えることができる。 ○装飾の美しさとともに、使いやすさも考えて構想を練ることができる。 (作品、アイデアスケッチ、テスト)	
				創造的な技能	○材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫することができる。 (作品、テスト)	
			言語活動 彫刻における空間表現は、形や色によってどのように工夫されているか、既習事項をもとにまとめる。	鑑賞の能力	○作品にあらわされた動きに注目して鑑賞することができる。 (ワークシート、まとめ・感想、テスト)	
		2学期小計 (17)				
	1 3	篆刻(握りを中心とした彫刻表現) 感じたことを話し合おう (明日の神話) 学年末テスト	6 1 1	○作家や生涯や社会的背景を考察し、作品に込められた作者の思いと表現方法の工夫を深く味わうとともに、抽象的な表現に関心をもつ。また、美術が社会に対してメッセージを発する力を持つことを学ぶ。	美術への関心・意欲・態度	○美術が社会や生活にもたらす力に注目することができる。 (ポートフォリオ、授業の様子、ワークシート)
					発想や構想の能力	装飾の美しさとともに、使いやすさも考えて構想を練ることができる。 (作品、アイデアスケッチ、テスト)
					創造的な技能	○材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫することができる。 (作品、テスト)
				言語活動 「ここはどんな場所だろう?」「このキャラクターは何をしているのだろうか?」と問いかけ、形や色彩などから生じる感情やイメージなどを基にして、価値意識をもって話し合う。	鑑賞の能力	作品や作者の言葉から感じ取ったことを話し合うことができる。 (ワークシート、まとめ・感想、テスト)
				3学期小計 (8) 合計 (35)		
先生からのアドバイス	学習の進め方 (学習方法、学習形態等)	・中学校卒業後を見据えて鑑賞を重視した授業を行います。作品を制作することだけが美術との付き合い方ではありません。 ・作品の歴史的背景や知識も学習していきますので、年間予定にある作品については、自主的に調べておく授業本番でも理解しやすいでしょう。				
	学習上の留意点 受講上の注意	・ワークシートの記入や提出された作品を中心に評価を行います。 ・授業の準備や片付けの状況も含めた授業時間の過ごし方も見ていきますので、最初から最後まで気を抜かないようにがんばりましょう。 ・自分の身の回りの整理整頓も、効率的な作業を行ってよりよい作品をつくるために必要なことですから、気をつけましょう。				